



はーとふる エッセイ

富山市長 藤井裕久

No.27 市民に愛される、 普段使いのホールを目指して

去る7月1日に、待望のオーバード・ホールの「中ホール」がオープンし、記念の柿落とし公演が行われた。歌舞伎俳優で人間国宝の坂東玉三郎さんと、佐渡島を拠点に国際的に活動している太鼓芸能集団・鼓童さんによる「アマテラス幻想」である。今回の公演のもととなった「アマテラス」は日本神話を題材に構成されており、平成18年に玉三郎さんと鼓童さんが初共演して大好評を博した初演から、18年にわたり進化を遂げながら各地で公演され今日に至っている。「アマテラス幻想」は、富山特別企画として玉三郎さん自身が演出と振り付けを組み直したとお聞きしている。この手の舞台芸術に疎い自分にとっても、鼓童さんの力強くもリズムミカルな和太鼓の響きに繊細で妖艶な玉三郎さんの表現力が見事に調和し、全ての邪気を払うような神々しく感動的な舞台であった。今後もオープニング記念公演として、各界で活躍されているアーティストによるコンサートや演劇、ダンスパフォーマンスや落語など、様々なジャンルの演目を準備してお待ちしているので、ぜひ一度訪れて体感していただきたいと思う。

さて、話は変わるが、開館記念式典での新田八朗知事の祝辞が巷で話題になっている。過日、ある新聞社のコラムにも取り上げられていたが、知事は、富山市に現存するホールをピアジョッキに見立て、2,196席のオーバード・ホール大ホールを大ジョッキ、

283席の市民プラザ・アンサンブルホールを小ジョッキ、その中間が中ジョッキ・652席の中ホールであると例えたのである。大ジョッキでは大きすぎるし小ジョッキでは小さい、そんな方々にとってちょうどよいサイズ感の中ジョッキが出来て、演者の選択肢が増えることにより更なる芸術・文化活動の発表の機会が増え、県民や市民のウェルビーイングの向上につながるのだ、とのことである。まさに言い得て妙である。

中ホールは、可動式客席となっており、メインステージでの演劇やコンサートをはじめ、センターステージでのファッションショーやスポーツイベント、平土間使いの展示会など、アイデアによって様々な可能性が広がる。プロを目指す桐朋オーケストラ・アカデミーや市民楽団の演奏、地域で活動するバレエ団や音楽教室、劇団や民謡の会、学校の吹奏楽部や演劇部などの発表など、演じ手にとって使い勝手が良いホールである。また、客席とステージが近いので、観客は演者の表情や息づかいを感じることができる。加えて、練習室や音楽鑑賞室も備えており、普段からの活動拠点として利用もできる。

作った仏に魂を入れるのはこれからである。市民の皆さんの普段使いがあってこそ、寄って良し・観て良し・演じて良しの「マイホール」としての愛着が育まれ、ひいては芸術や文化・芸能を通した市民の「心の豊かさ」や「幸せ」につながってゆくのだと思う。



メインロビーで行われた開館記念式典

今月の 広報クイズ

富山市LINE公式アカウントの便利な機能の一つとして〇〇収集日通知サービスがオススメです。

〇に入る文字は？ 答「〇〇収集日通知」

富山市LINE公式アカウント開設記念プレゼント

- ①500円分の図書カード(抽選で5人)
 - ②ガラス美術館展示チケット(抽選でペア10組)
- ※②はLINEからの応募者に限ります。

締め切り▶ 8月17日(木)(必着)

当選発表▶ 賞品の発送で代えさせていただきます。

前月の答え 教育 前月の応募総数 219件(正解数214件)

富山市LINE公式アカウントかはがきで回答してください。

はがきの場合

答と郵便番号、住所、氏名、年齢、連絡先(電話番号かメールアドレス)と「広報クイズ応募」と書いて、広報課(〒930-8510 新桜町7-38)へ(1人1通)。

LINEの場合

右の二次元コードから友だち追加をして、メニューから回答してください。



※今回からEメールでの回答は受け付けませんので、ご了承ください。